

## 「少子化に関する意識調査研究」報告について

本調査研究は、少子化の要因として、結婚することや子どもを持つことに対する国民の意識の変化があることを踏まえ、結婚することや子どもを持つことに対する国民の意識を体系的に把握することを目的として実施したものである。

今般、その調査研究報告がまとまったので、別添のとおり公表する。

# 少子化に関する意識調査研究

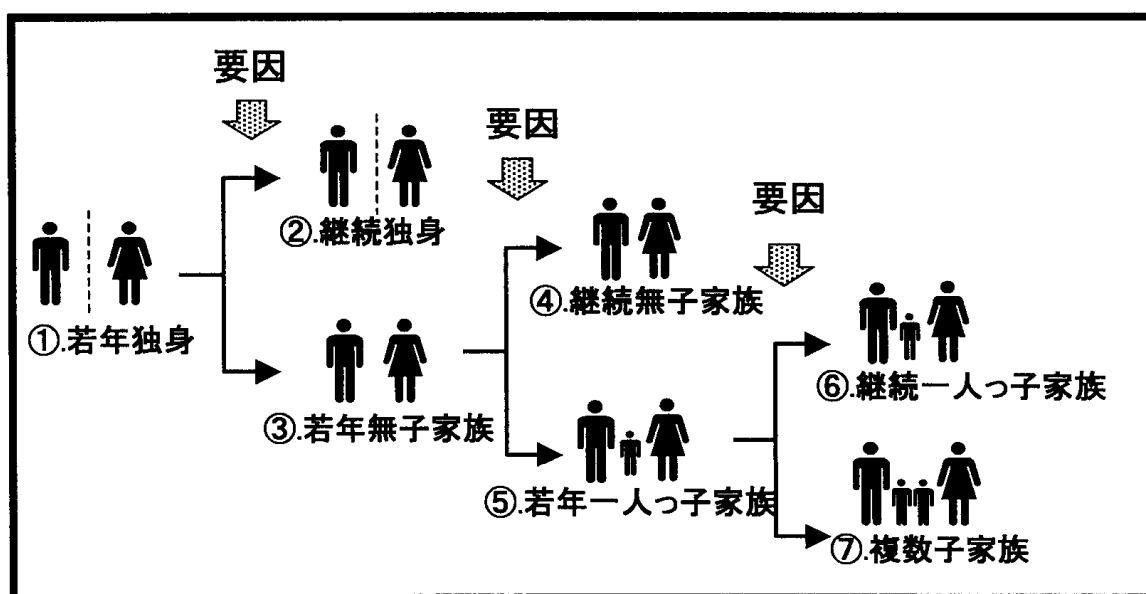
## (報告書概要版)

### 1. 調査目的

少子化の大きな要因として、結婚することや子どもを持つことに対する国民の意識の変化があることを踏まえ、結婚することや子どもを持つことに対する国民の意識を体系的に把握し、今後の政策の検討に資する。

### 2. 調査の趣旨

- 結婚や子育ての中心となる20～40代の男女を対象に、ライフステージ別に下図の7グループを設定。
- このライフステージ別分類は、何らかの意識要因等が働いて、「①若年独身」から「②継続独身」又は「③若年無子家族」へ、「③若年無子家族」から「④継続無子家族」又は「⑤若年一人っ子家族」へ、さらに「⑤若年一人っ子家族」から「⑥継続一人っ子家族」又は「⑦複数子家族」に至っているという前提によるものである。
- これら①～⑦のグループ別に、意識要因(「結婚・家族意識」「育児意識」「就業意識」「家計・経済意識」「自己意識」「社会意識」)やライフスタイルの実態を比較・分析することにより、少子化を導く意識等の因果関係を把握する。



### 3. 調査方法・対象及び調査内容

#### (1) 調査対象とサンプル数

全国に居住する20～49才の男女個人

グループ		本人年齢	妻年齢	集計数
男性	1 若年独身	20～32才	—	150
	2 継続独身	33～49才	—	150
	3 若年無子家族	20～49才	20～31才	150
	4 継続無子家族		32～49才	150
	5 若年一人っ子家族		20～35才	150
	6 継続一人っ子家族		36～49才	150
	7 複数子家族		20～49才	150
女性	8 若年独身	20～30才	—	150
	9 継続独身	31～49才	—	150
	10 若年無子家族	20～31才	—	150
	11 継続無子家族	32～49才	—	150
	12 若年一人っ子家族	20～35才	—	150
	13 継続一人っ子家族	36～49才	—	150
	14 複数子家族	20～49才	—	150

#### (2) 調査方法

郵送によるアンケート調査を実施。サンプルの抽出に当たっては、大都市・中都市・小都市・町村の4区分の人口比率に応じて実施。

#### (3) 調査内容

対象者の基本属性、結婚の状況と結婚意識、家族の状況と家族意識、子育ての状況と育児意識、就労状況と就業意識、家計の状況と経済意識、自己意識・社会意識、少子化についての考え方

#### (4) 調査実施期間

郵送調査実施期間 2004年2月16日(月)～3月2日(火)

#### (5) 委託機関

株式会社 電通

・調査内容等の検討のため、研究会を設置。

〈委員〉

板本洋子氏(財団法人日本青年館 結婚相談所所長)

高橋重郷氏(国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部部長)

山田昌弘氏(東京学芸大学教育学部 教授)

山本恵子氏(NHK報道局社会部 記者)

(50音順)

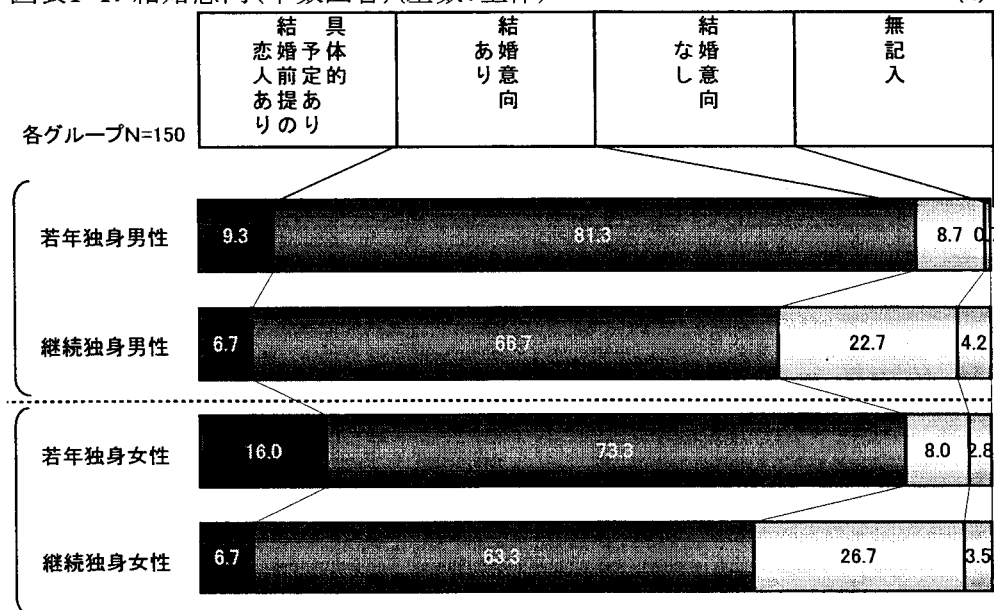
# 《調査結果》

## I 「継続独身」と「若年独身」・「若年無子家族」の比較

### 1. 結婚意識

○ 結婚の意向について、男女とも、【若年独身】では「結婚意向なし」が1割弱であるのに対し、【継続独身】では3割弱となっている。

図表1-1. 結婚意向(単数回答)(基数:全体) (%)



○ 結婚していない理由について、どのグループの男女とも、「適当な相手にめぐり合わないから」が最も高いが、【若年独身】では「経済力がないから」が、【継続独身】では「親の扶養・同居の問題を抱えているから」が相対的に高い状況となっている。

また、【継続独身】の女性では、「義父母や親戚など人間関係が複雑になるから」が相対的に高い状況となっている。

図表1-2. 結婚していない理由(複数回答)(基数:婚約中を除く独身者) (%)

	N	適当な相手にめぐり合わないから	経済力がないから	自分の自由になる時間やお金が少なくなる	趣味やレジャーを楽しむために	異性と上手につきあえないから	義父母や親戚など人間関係が複雑になるから	仕事に打ち込みたいから	まだ若いから	現在の生活レベルを落としたくないから	親の扶養・同居の問題を抱えているから	もう少し、相手を知りたいから	相手に結婚できない事情があるから	相手が乗り気でないから	親や周囲が同意しないから
若年独身男性	143	60.8	46.9	19.6	21.0	16.8	3.5	11.2	18.2	5.6	2.1	5.6	0.7	2.8	0.7
継続独身男性	143	58.7	28.7	23.1	17.5	13.3	4.9	0.7	0.7	7.7	10.5	4.2	4.2	4.2	0.7
若年独身女性	143	58.0	28.7	34.3	22.4	9.8	10.5	16.1	15.4	8.4	4.9	9.8	5.6	0.7	2.8
継続独身女性	144	66.0	5.6	19.4	16.7	11.1	19.4	9.0	0.0	11.8	14.6	4.9	4.2	2.8	1.4

○ 結婚のよい点について、男女とも【継続独身】は、「好きな人と一緒にいられる」が相対的に低く、「社会的な信用が得られる」が相対的に高い状況となっている。  
また、女性の場合には、「経済的な安定が得られる」も相対的に高い状況となっている。

図表1-3. 結婚のよい点(複数回答)(基数:全体) (%)

各グループN=150	家族や子どもを持てる	精神的な安定が得られる	好きな人と一緒にいられる	人生の喜びや悲しみを分かち合える	社会的な信用が得られる	経済的な安定が得られる	親や周囲の期待に応えられる	一人前の大人だと感じられる	親から独立できる	交友関係が広がる	生活上の不便が無くなる	性的な充足が得られる	あてはまるものはない
若年独身男性	58.0	53.3	59.3	42.7	16.0	4.7	12.7	22.0	9.3	7.3	6.0	13.3	4.0
継続独身男性	52.0	51.3	54.7	49.3	28.0	2.0	16.7	16.0	4.7	14.7	10.7	16.7	6.7
若年無子家族男性	48.7	65.3	74.7	44.7	22.0	4.7	10.0	16.0	6.7	10.7	10.7	8.7	0.7
若年独身女性	70.0	52.7	62.0	56.7	12.7	15.3	14.7	8.0	10.0	12.0	2.7	6.0	2.7
継続独身女性	52.7	60.0	54.7	56.0	32.0	28.7	12.7	10.0	16.0	10.7	6.0	5.3	3.3
若年無子家族女性	51.3	74.7	71.3	60.7	17.3	22.7	14.0	11.3	20.0	8.7	9.3	7.3	0.7

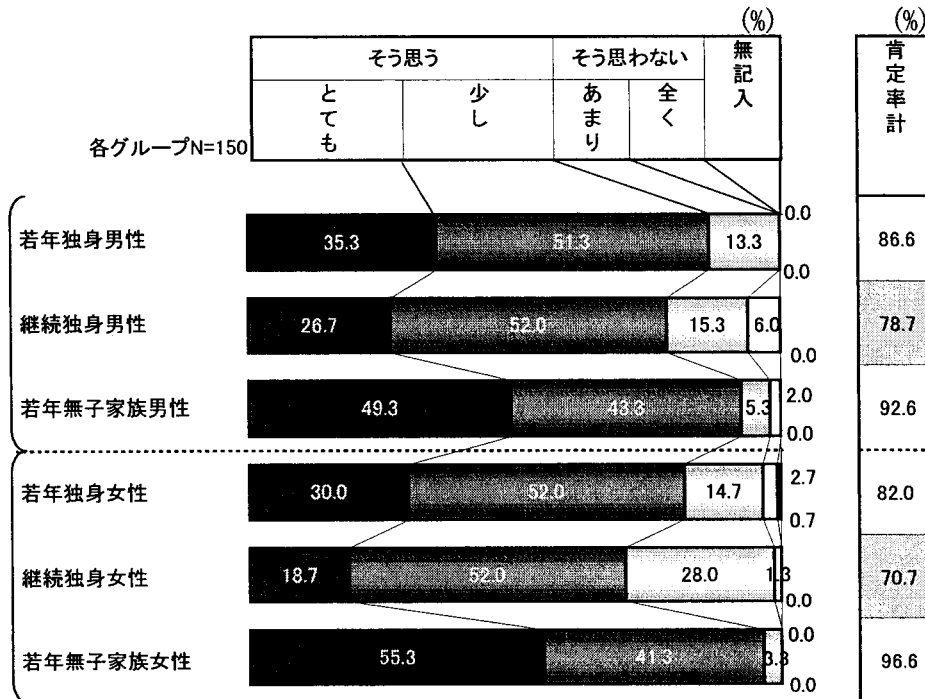
○ 結婚のよくない点について、男女とも【継続独身】は、「義父母や親戚など人間関係が複雑になる」及び「ストレスがたまる」が相対的に高い状況となっている。

図表1-4. 結婚のよくない点(複数回答)(基数:全体) (%)

各グループN=150	自分の時間が少なくなる	行動が制限される	自分の自由が少なくなる	義父母や親戚など人間関係が複雑になる	家事に縛られる	ストレスがたまる	家族扶養の責任が生まれる	仕事が終わらなければならぬ	交友関係が狭くなる	恋愛が自由にできなくなる	親元から離れなければならない	生活のレベル・質が落ちる	あてはまるものはない
若年独身男性	54.7	48.7	50.7	21.3	6.7	12.0	30.7	2.7	8.0	6.0	1.3	5.3	14.0
継続独身男性	50.7	47.3	38.7	26.7	4.7	21.3	31.3	4.0	3.3	12.7	0.7	7.3	12.7
若年無子家族男性	40.7	44.7	50.0	14.7	4.7	9.3	19.3	0.7	9.3	9.3	1.3	4.0	12.7
若年独身女性	61.3	56.0	46.7	50.7	36.0	19.3	14.0	16.0	12.7	5.3	15.3	8.7	4.0
継続独身女性	63.3	46.0	37.3	55.3	34.0	30.0	16.7	16.7	12.7	6.7	10.7	6.7	5.3
若年無子家族女性	33.3	34.0	37.3	42.7	26.7	16.0	8.0	14.7	10.7	11.3	16.7	4.0	10.0

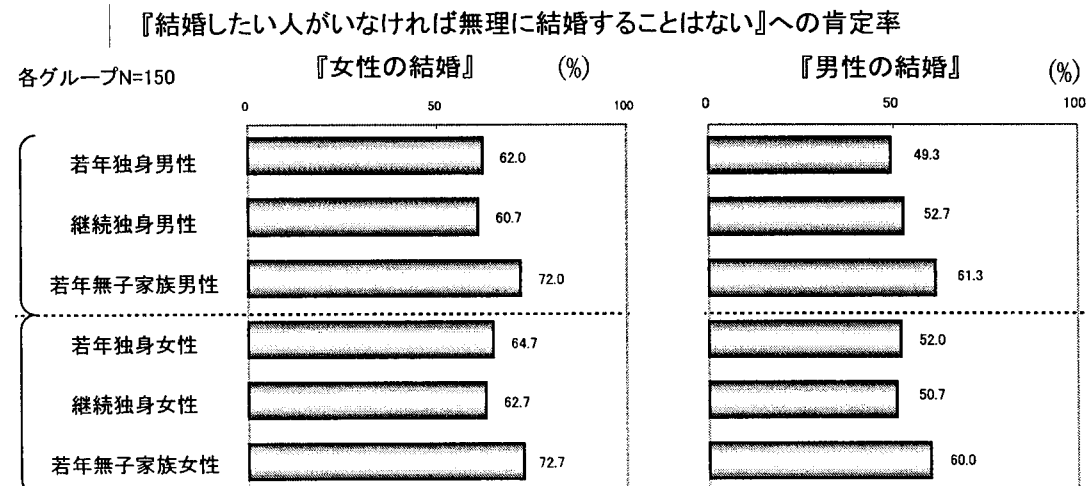
○ 『結婚には喜びや希望を感じる』に対する意見について、【継続独身】は、男性で8割弱、女性で7割の者が肯定しているが、【若年無子家族】では男女とも9割を超えている。

図表1-5. 『結婚には喜びや希望を感じる』に対する意見(単数回答)(基数:全体)



○ 『結婚したい人がいなければ無理に結婚することはない』に対する意見について、男女とも【継続独身】は、『女性の結婚』に関して6割の者が、『男性の結婚』に関して5割の者が肯定しているが、【若年無子家族】では、『女性の結婚』に関して7割の者が、『男性の結婚』に関して6割の者が肯定している。

図表1-6. 『女性の結婚』『男性の結婚』への意見(単数回答)(基数:全体)



○ 結婚相手の条件について、どのグループの男女とも、「性格・パーソナリティー」及び「価値観・相性」が高い状況となっている。  
 また、特に【若年独身】の女性は、「家事・育児に対する能力・姿勢」が相対的に高い状況となっている。

図表1-7. 結婚相手の条件(回答3つまで)(基数:全体) (%)

	性格・パーソナリティー	価値観・相性	相手の収入・経済力	容姿・容貌	自分の仕事に対する理解と協力	共通の趣味	家事・育児に対する能力・姿勢	夫婦の対等意識	年齢	センス	職業	自分の親との同居	相手の親との別居	学歴	持ち家	財産・貯蓄額
各グループN=150																
若年独身男性	82.0	65.3	1.3	27.3	15.3	16.0	25.3	8.7	14.7	10.7	1.3	8.0	1.3	0.7	0.0	0.7
継続独身男性	80.0	52.7	4.0	22.7	14.7	22.7	22.7	8.0	18.0	12.7	1.3	12.7	0.0	0.7	0.7	0.0
若年無子家族男性	83.3	60.7	0.0	23.3	19.3	16.7	14.7	8.0	3.3	7.3	1.3	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0
若年独身女性	78.7	61.3	47.3	7.3	14.0	8.0	30.0	8.7	9.3	6.0	9.3	1.3	6.7	2.0	0.7	0.7
継続独身女性	84.0	69.3	45.3	6.0	14.7	12.0	12.0	12.0	7.3	4.7	6.7	7.3	6.7	0.0	0.0	2.0
若年無子家族女性	88.7	68.0	22.0	6.0	11.3	18.7	8.7	17.3	4.7	6.0	8.0	2.7	4.7	3.3	0.7	2.0

## 2. 就業意識

○ 現在の仕事と私生活のバランスの状況について、【若年独身】及び【継続独身】は、男女間にほとんど差はないが、【若年無子家族】では、男性は「仕事中心」が7割、女性は「バランスのとれた生活」が6割弱で最も多く、男女間の差が顕著である。

図表2-1. 現在の仕事と私生活のバランスの状況(単数回答)(基数:勤労者) (%)

